



校長室通信

小国町立小国中学校

令和 4. 3. 24 (木) No35

文責 狭間卓史



「明日を担う」

4日(金)に実施した卒業式について、9年生の姿については前号でお伝えしたとおりですが、今号ではその裏側で支えてくれた下級生の姿についてお伝えします。

卒業式は様々な準備を必要とする行事ですが、これまで中心的な役割を担ってきた9年生がその準備に加わることはなく、8年生が柱を担う初めての学校行事という位置づけです。

ただ、2年3ヶ月も続くコロナ禍により、8年生は昨年の卒業式に直接参加させることができなかつたため、どこまで対応出来るかわからないという状況でした。しかしながらそれは全くの杞憂に終わりました。8年生全員が自分の役割を責任を持って取り組んでくれ、そういう姿を7年生にも示してくれました。

式そのものも、8・7年生は各教室でリモートでの参加でしたが、各担任からは、9年生の動きに合わせ、きちんとした態度で参加できていたという報告を受けました。本校の明日を担う生徒は確実に育っていることを実感することが出来ました。

また、卒業式後には9年生が屋外でお別れの会を持っていましたが、その9年生にベランダ越しにエールの拍手送る姿もありました。温かな光景でした。8・7年生が形だけではなく、心も受け継ぐ姿を示してくれ、9年生も安心して卒業していきました。

一年後、二年後に今の8年生、7年生も卒業の時を迎えます。その時までの時間を精一杯、小国中生として過ごしてくれるはずだと期待しています。



【モニター越しに参加する7年1組の様子】



【各教室から卒業生へのエールの拍手】

「おぐにの宝として」

卒業式の前日(3日)に、小国町婦人会から木田増美会長を始めとして代表の方々が来校され、本校9年生に卒業のお祝いをくださいました。

今年の9年生は中学校在学中の大半をコロナ禍で過ごし、婦人会としても十分な関わりを持つことが叶わなかつたため、せめて卒業の門出を祝いたいとの思いで準備してくださったそうです。卒業生一人一人に紅白饅頭にメッセージと折り鶴を添えて贈呈いただきました。

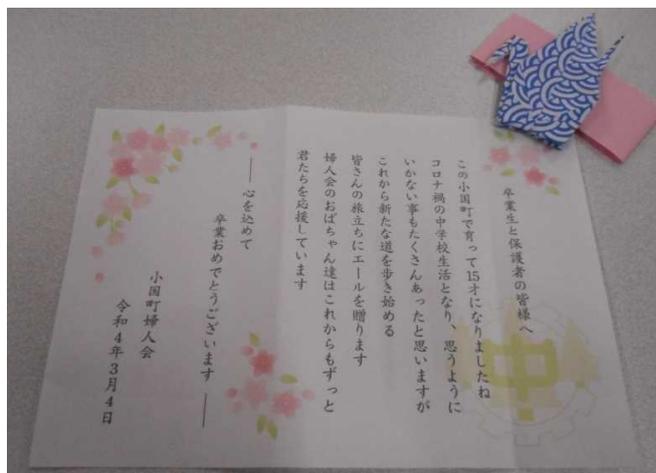
9年生の卒業後の進路はそれぞれですが、どこに進んだとしても家族はもちろんのこと、小国町の皆さん方に見守られていることを何よりのエネルギーに換えて頑張るはずです。

あらためて本校生徒への温かなお心遣いありがとうございました。

【最後まで温かなお心遣いに感謝】→



【感謝の思いを込めて】



校長室通信は「小国中ホームページ」
『校長室から』コーナーでカラー版を
ご覧いただけます。